



解体した車両の中から救助者を救出する救急隊

まさかのときのために 鶴田町総合防災訓練



「地震発生とともに庁舎から幼児・児童を避難場所へ誘導する役職員」



「建物の下敷きになった車内から負傷者を発見。車両を解体するレスキュー隊」

総雨量300ミリ以上、岩木川堤防が決壊の恐れあり。そんな時、町に震度6強の地震が襲ってきたら…。

鶴田町では、地域防災計画に基づき、地域住民と防災関係機関の参加のもと総合防災訓練を実施して、防災体制の強化や防災意識の高揚を図っています。

9月17日（木）、秋雨前線の影響で津軽地域が総雨量300ミリを超え、岩木川堤防が決壊のおそれがあるという状況の下で、午後1時30分、秋田県沿岸沖を震源とするマグニチュード7・2の地震が発生、震度6強の揺れを観測し、庁舎の倒壊と火災が発生したことを想定して、町内の幼児から一般町民まで300人が参加し、総合防災訓練が実施されました。

【主な訓練内容】

■救助・救出訓練

①救急隊・役場職員による庁舎内の負傷者の救出②車内に閉じ込められた負傷者の救出③防災ヘリコプターによる人員の救出（緊急の災害出動により中止）

■救急・救護訓練

①救急隊による救護所の設置②負傷者の救護手当て③負傷者を救急車で搬送

■消火訓練

消防団員および消防員による消火

■工法訓練

水防団による堤防漏水箇所への月の輪工および積土の工

鶴田町総合防災訓練



← 岩木川堤防から漏水発生。決壊の恐れがあるため、月の輪工を行い決壊を未然に防ぐ。(町水防団の皆さん)



← 役場庁内から火災が発生。消防団員と消防署員が迅速に消火活動にあたる。



← 一般参加者には、実際の火災を想定して、消火器による消火訓練が行われた。



← 消火器の正しい扱い方について、消防署員から説明が行われる。

突然襲ってくる自然災害

あなたの備えは大丈夫？

まさかのために
ぜひ知っておきましょう！

「風水害について」

台風や大雨は到達時期や規模がある程度予測できます。しかし局地的豪雨のように予測の難しいものもあるため、油断せず、日ごろから十分な対策を立てておきましょう。

●気象情報の収集

- ①ラジオ、テレビなどで気象情報を正確につかむ
- ②台風などによる被害が予想されるときや災害が発生したときは、町や警察、消防などが避難や災害の状況などに関する広報を行います。広報車からの情報に注意を！

●事前に屋外の点検を

- ①窓や雨戸、アンテナ、窓ガラスなどを必要に応じて補強する
- ②ベランダの物干しざおや植木、小物など、飛ばされやすい物を取り込む
- ③床上浸水の恐れがある場合は、家財道具を移動する
- 屋内では
- ①停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオを準備する
- ②気象情報を注意深く聞く
- ③断水に備え飲料水を確保しておく
- ④高齢者や病人、小さな子どもを安全な場所へ移動させる

●避難するとき

- ①火の始末、戸締まりを確実にする
- ②家族全員で避難する（外出中の家族には×をを残す）
- ③隣近所と協力し、避難する

「地震について」

何の前触れもなく起こる地震。予測が困難なだけに、いざというとき冷静に行動できる知識、そして日ごろからの備えが大切です。

●もし地震が起ったら

- ①身を守る…（屋内では）机やテーブルなどの下へもぐる。家具や金庫のそばから離れる。（野外では）塀や軒下、ビルなどのそばから離れる
- ②すばやく火の始末…「火を消せ！」と大声を出す。ガスの元栓を締め電気プラグを抜く。しかし、無理はないこと
- ③脱出口の確保…ドアや窓を開けて出入り口を確保する

●地震の揺れが収まったら

- ①消火の確認、火が出たらまず消火…ガスコンロ、ストーブ、タバコの火など
- ②家族の安全を確認…倒れた家具や柱の下敷きになっていないかを確認
- ③必ず靴を履いて動く
- ④外に出るときは慌てずに…狭い路地、川、ブロック塀、自動販売機などには近づかない。切れた電線にも注意

●みんなの無事を確認、火災発生を防ぐ

①行方不明やけが人がいないかを確認

②漏電やガス漏れに注意する

③火災が発生したときは大声で知らせる（特に高齢者や聴覚障害者）

④電話は、消防車や救急車を呼び緊急速連絡を優先する

⑤協力して消火活動、救出・救護活動をする

●避難する

- ①避難するときは徒歩、持ち物は最小限に
- ②正しい情報を聞く（デマに惑わされない）
- ③隣近所ですいしよに避難する→高齢者、障害者、子どもの避難が最優先
- ④余震には十分に注意する



← 訓練の最後に行われた蘇生法とAEDの使い方についての講習。鶴田消防署では、町内の各団体から要望があれば出向いてこの講習をしてくれる。